

神奈川県内におけるインバウンドの取り込みについて ～横浜市における取り組み～

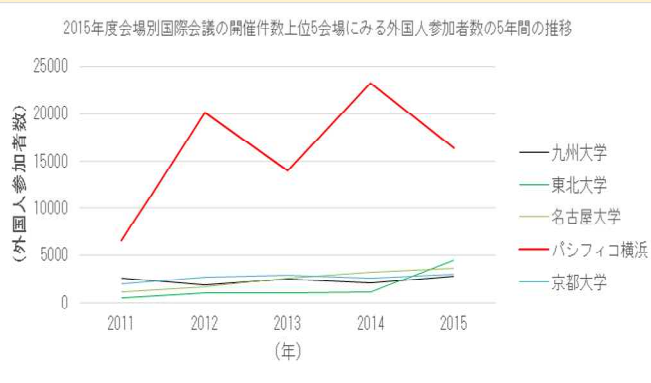
- ☆ 国際化の加速に伴うインバウンド増加が見込まれるなか、国際会議の誘致等によるMICEの推進は、横浜市の重要施策の1つ。
- ☆ 横浜市を世界的な国際会議都市「Yokohama」として位置付ける等、都市としてのブランド力の向上が課題。

1. 国際会議の開催状況

(出所：日本政府観光局(JNTO)国際会議統計(2011～2015))より独自作成



(出所：パシフィコ横浜提供)



○ 国際会議の開催件数上位5会場にみる外国人参加者数において、**パシフィコ横浜**は施設単体としてはMICEの中核施設にふさわしい**圧倒的な強さ**。

○ パシフィコ横浜が開催施設として選ばれる背景には、会議場・展示場・ホテル等が一体となった「**ALL IN ONE**」施設であり、10,000人以上の**大規模会議等も対応可能な点**等。

2. 誘致促進(取り組み事例)

(1) 横浜市

○ パシフィコ横浜を主な拠点として平成元年以降、コンベンション機能を備えた機能集積型施設として「**みなとみらい21地区**」を整備。ALL IN ONE施設で大規模会議等の受け入れが可能という点に加え、羽田空港からの交通利便性をビットペーパーにおいてPRするとともに、三溪園での文化体験等、アフターコンベンションの充実にも取り組んでいる。

- **開催される会議は、経済的な波及効果が高い医学系会議が大半を占める。**
- **みなとみらい21地区が京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略特区に指定。国際的な展示会、コンベンション等開催を通じて、情報の受発信等の役割を担っている。**

○ 国際会議等の開催に合わせ訪れた研究者等を講師に招き、市内の児童・学生等を対象として講演・実験等を行う「**次世代育成事業**」を実施。受講の経験を端緒として、将来の横浜市をけん引する人材が輩出されることに期待。

➢ **受講をきっかけとして研究を行うために医学部へ進学する等、次世代を担う若い研究者の育成に貢献。講義の中では、強い関心を持った受講生によるレベルの高い質問に、講師陣も熱が入る。**

(2) パシフィコ横浜

○ 公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューローと協同して、中大型国際会議案件へのセールス強化等、積極的な国際会議の誘致に取り組み、学会関係者と**信頼関係を構築し**、国際会議等誘致をバックアップする等に力を入れている。

➢ **医学系会議は参加者数が6,000人以上と大規模。会議に併せて展示会等も開催されることが多く、医療機器の展示等によるビジネスチャンスが期待される。**

➢ **ALL IN ONE施設の利点も相乗し、リピーターの割合は5割以上を誇るほど人気が高い。**

○ 一方で、年間問合わせ件数に比べ、決定件数はその半数以下であり、開催期間が重複する中大規模会議等の会議開催要望に応えられないなど課題を抱える。

➢ **機会的損失の解消、キャパシティの拡大によるMICE機能の強化が喫緊の課題。**

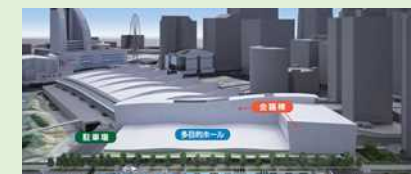


(出所：パシフィコ横浜提供)

3. 今後の取り組み

○ みなとみらい21中央地区20街区において、PFI手法による新たなMICE施設(約7,600㎡の多目的ホール等)を整備。2020年4月の運用開始を予定しており、**中大型会議等の積極的な誘致等による既存施設で機会損失していた催事の確実な取り込み・既存施設のキャパシティでは誘致できない大規模会議の開催等**が期待される。

➢ **MICE機能の強化、国際会議開催件数の増加に伴う社会的波及効果が見込まれる。**



(出所：横浜市提供)

4. まとめ

○ MICE推進によるインバウンドの増加は**経済的波及効果のみならず、社会的波及効果の拡大が期待される。**

○ 日本国内のインバウンド獲得の競争が激化している中、どのようにして「Yokohama」の魅力・ブランド力を向上させ、「**躍動できる舞台としての都市**」を構築するか今後注目。



【横浜市へのヒアリング模様】